

21世紀に向け 新たな提言

— 竜丘地区新春放談会開かれる —



発行所
 飯田市竜丘公民館
 編集人
 竜丘公民館広報委員会
 印刷所
 龍共印刷株式会社
 上郷町黒田22-5353

人口	6,369人
男子	3,065人
女子	3,304人
世帯数	1,797戸
(1月末現在)	

平成三年竜丘地区新春放談会が去る一月二十七日、竜丘公民館で開かれた。今年も昨年度の各種団体による要望、抱負の出し合いだけでなく、当地区のかかえる問題を四つにしほり、各テーマごとに基調報告を得た後放談という形をとり、一般参加も含め六十九名の参加者で熱の込められた放談会となった。

テーマ一では「高齢化社会に対応する豊かな風土づくりを考へる」と題して社協分会長木下一さんより、本格化する高齢化社会の中で増える孤独世帯や寝たきり、痴呆等障害を持った老人が増える事が予想される。飯田市中ではこの六月より飯田病院アップルハイツ飯田内に介護支援センターを開設し、介護相談や介護指導などにあたると予定だが、そんな中で安全で快適な潤いのある生活環境(地域)を作る為に私達は何をしなければならぬのか、との基調報告がされた。

放談の中ではサンヒルズ内にデイサービスセンターを設置し、余熱利用と併わせ高齢者が生き生きと生活できる為の施設の要望、提言がされた。又竜丘は周辺地区に比べ無医状態に近く

住民として不安がある。高齢者も自立の努力や若い人達との交流を望む等の意見も出された。

テーマ二では「竜丘の古墳を考へる」と題して古墳を考へる会々長塩沢義男さんより、竜丘には百三十八基もの古墳があったが三分の二が消失し、現在残っている三十六基をどう保存し後世に伝えて行くのかとの問い掛けと、古墳を考へる会(会員八十余名)で行なっている古墳台帳づくりや古墳学習会、所有者との懇談会、先進地視察等の活動報告がされ、地域の貴重な文化遺産として長期的な展望に立った保存を考へなければならぬとの基調報告がされた。

放談の中では戦後急激に減ってしまった竜丘の古墳を貴重な財産と位置付け、

古墳公園等の文教(学習)ゾーンとして飯田市や竜丘の基本構想に盛り込み、伊那谷全体のものとして保存して行かなくてはならないとの意見、提言がされた。

テーマ三では「地域の環境問題を考へる」と題して婦人会長今村孝子さんより、近年地球規模で考えられている環境問題について日常生活の中で何が出来るのか婦人会で十年來行なっている廃油や牛乳パックの回収の活動報告とゴミ、下水処理等の環境問題を考へようとの基調報告がされた。

放談の中では現在空気、水の汚染、資源の問題等言われているが、まだまだ地区民(家庭)の関心は薄く自分達の問題としてとらえられていない。地域ぐるみで実行できる事は何か。ギフチョウの生息できる自然環境を守り環境破壊を食い止めよう。下水道問題を周辺地域と共に考へようとの提言がされた。

テーマ四では「二〇〇一年の竜丘への提言」と題して自治会長伊原五郎さんよりまだ「むとす竜丘」が発足したばかりで基本構想は出来上がっていない。治水対策事業も始まるが当面自治会では地区内道路の拡張、開通等が重要課題であり今後は周辺地区と手を組み行政に要請しないと実現しない。二十一世紀に向け様々な夢や提言を出してほしいとの基調報告がされた。

放談の中では開発と環境問題は相反する所があるが、住民不在の開発でなく業者住民共に環境、安全等に認識を持ってほしい。下水処理に早急に取り組んでほしい。市立病院跡地に総合福祉サービスセンターを作りデイサービス、地域ネットワーク作りを進めてほしい。香典返し等生活改善の徹底を望む。竜丘の財産である古墳やギフチョウをもっとアピールしよう。万寿山にマレットゴルフ場を作してほしい。出来る事は今からやってみよう。将来の産業、環境、福祉等地域づくりに夢のある基本構想をつくり上げてほしい等の提言、要望が出された。

今回のテーマ一、二、三、も最終的には四つにつながると思うが来たるべき二十一世紀に向け地区民一体となって住み良い竜丘づくりに歩みを進めよう。

何事もなく、無事、二十才を迎えることが出来た。今から思えば短かったような長かったような、そんな二十年間で親にすっかり甘え、わがままだらけの私でいっぱいでした。高校の時はクラブに熱中し、他のことは耳にもはいらず、好き勝手にやってきました。

そして卒業。社会人になり、仕事を覚えるのに、毎日必死で大変でしたが、今ではだいぶ慣れ、休みの日には、会社の先輩とカラオケやドライブに行ったりして、楽しく過ごしています。

又、社会人になってすぐに、青年会に入りました。幅広い年齢層の人たちに囲まれ、会社のことや友人、恋愛関係のことなどを話し

青年の主張

何事もなく、無事、二十才を迎えることが出来た。今から思えば短かったような長かったような、そんな二十年間で親にすっかり甘え、わがままだらけの私でいっぱいでした。高校の時はクラブに熱中し、他のことは耳にもはいらず、好き勝手にやってきました。



今の気持ち大切に

— はたちを迎え —

桐林 岡村 美好

最近では、テレビ、ラジオ等で湾岸戦争の話を持ち続けたいです。最後に、両親をはじめお世話になった方、ありがとうございました。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

しかし昔と違って住民の高齢化が進んでいる今日、なかなか一月半に一回まわって来るだけだといえその負担は以前と比べて大きくなってきており、夜まわるのがつらくなって夜警団から出たいという人達の声も聞こえてくるそうです。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

最近では、テレビ、ラジオ等で湾岸戦争の話を持ち続けたいです。最後に、両親をはじめお世話になった方、ありがとうございました。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

しかし昔と違って住民の高齢化が進んでいる今日、なかなか一月半に一回まわって来るだけだといえその負担は以前と比べて大きくなってきており、夜まわるのがつらくなって夜警団から出たいという人達の声も聞こえてくるそうです。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

しかし昔と違って住民の高齢化が進んでいる今日、なかなか一月半に一回まわって来るだけだといえその負担は以前と比べて大きくなってきており、夜まわるのがつらくなって夜警団から出たいという人達の声も聞こえてくるそうです。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。



火の用心 チリン・チリン

ヤフ呷

春本番となり桜の万寿山ツツジの鈴岡公園、開善寺の藤と竜丘の公園も多くの花見客で賑わうのも間近である。近い所にはありながら行くのは花見の時だけ、そんな人達が多い様である。この程秋公民館が主管となり県道の法面を利用した壁画に続き鈴岡公園をメインとした郷土史が発刊され地区に有配布された。立派なもので地区の多くの方達の寄稿もさる事ながら、編集にあられた方々の苦労は並大抵ではなかった事が推測される。

昨年の秋に完成した壁画に続き本も出版された。公園、まさに公の園としていち早く県の指定を受けた長い歴史を持つこの場所を守りたい。私達の公園なんだという住民意識の高まりが生み出した産物であるとしたならば、現在の公園の姿はアンバランスなものになってしまおう。

普段気晴しにちょっと行ってこようなんて場所。子供達の声が聞こえる。そんな場所に私達の公園はなっているだろうか。公園に対する意識、それは急に生まれて来るものではない。新しく移り住んで来られた方達も多い地域である。行政に対し遊具等の施設の充実を求める運動も有効であろう。しかしその前に私達の手でできる事がある筈だ。ゴミを拾う雑草を抜く等、有志によってなされてきた作業も多くの人が集まってすれば容易い筈である。地域の中心的な組織が先頭に立ち取り組む事が必要となってくるだろう。それが出来た時「私達の公園」は住む人の憩いの場所として生活と結び付き掛替のない財産である事を教えてくれる。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

それはそれでしかたのない事かもしれませんが是非とも自主的な防災への取り組みの灯を消さないよう、これからも地についた息の長い活動をしていく事で、より住みやすい地域作りを積極的に進めていっていただきたいと思っています。

心がけよう“生涯学習”

—竜丘市民大学—

◆… 去る二月八日を皮切りに、竜丘地区市民大学講座が開講され…

◆… 本年度は、「環境問題と地域づくりを考える」をテーマに四…

◆… 回の講座を行ない、毎回熱心な参加者で満席となりました。…

◆… 本年度も例年と同様に、時節柄寒い折にもかかわらず延べ二百余名の受講者があり、地区民の関心の高さを感ずると同時に、生涯学習への意欲的な取り組みと…

その定着に、大変素晴らしい事だと思えました。

第一講は、信州大学農学部教授の野口俊邦先生を講師に、「地球規模の環境問題とその社会的背景」とい



熱演する皆川先生

熱帯林破壊の現状や、酸性雨がもたらす環境破壊など具体的な問題を取り上げ、資料に基づいた解り易い講演となり、「日常生活に密着した内容で勉強になった」

「環境教育の大切な事を痛感した」など、地球の現況を理解出来たとの意見が多い反面、「あまりにも範囲が広くばく然としている為に難しかった」「結局私達は、何をしたら良いのだろうか?」といった、率直な感想も聞かれました。

第二講は、農山漁村文化協会の皆川隆三先生を講師として、春先には花見を兼ねて是非写生に出掛けた

に、「暮らしの視点から地域づくりを考える」というタイトルで行なわれました。

私達の暮らしの中にある様々な問題を取り上げ、全国各地のデータを提供し折りませながら、あらゆる角度から地域づくりを考える講演となりました。自然と農業の関わりや、「衣食住」についての感想があがった中で、特に子供の身体と教育問題に関する意見が多く聞かれました。

第三講は、「リゾート開発と環境問題及び地域振興」と題し、第一講と同じく野口先生を講師に行なわれました。

本年度は、若者と婦人の参加者が多いのが特徴的でした。又第四講終了後に、全講座参加した二十名を代表し、元老人会々長の小島若一さん(時又)に修了証が渡されました。

近年、「生涯学習」という言葉を良く耳にします。日頃から、疑問に思う事を自分で学習したり、この様な機会には積極的に参加する習慣を、身に付けたいものです。

「暮らしの視点から地域づくりを考える」というタイトルで行なわれました。

私達の暮らしの中にある様々な問題を取り上げ、全国各地のデータを提供し折りませながら、あらゆる角度から地域づくりを考える講演となりました。自然と農業の関わりや、「衣食住」についての感想があがった中で、特に子供の身体と教育問題に関する意見が多く聞かれました。

第三講は、「リゾート開発と環境問題及び地域振興」と題し、第一講と同じく野口先生を講師に行なわれました。

本年度は、若者と婦人の参加者が多いのが特徴的でした。又第四講終了後に、全講座参加した二十名を代表し、元老人会々長の小島若一さん(時又)に修了証が渡されました。

近年、「生涯学習」という言葉を良く耳にします。日頃から、疑問に思う事を自分で学習したり、この様な機会には積極的に参加する習慣を、身に付けたいものです。

去る十二月六日に、天竜川治水対策事業の土取り場運搬道路の用地調印が行なわれた。運搬道路予定地は塚原二子塚古墳と内山塚古墳の間を通り、駒沢川沿いに天竜川へ向かう地籍で、十二月二十七日に工事入札が行なわれ、木下建設が落札し、三月十日に起工式が予定されている。

運搬道路建設予定地は、塚原二子塚古墳と内山塚古墳の間を通り、駒沢川沿いに天竜川へ向かう地籍で、十二月二十七日に工事入札が行なわれ、木下建設が落札し、三月十日に起工式が予定されている。

断る為に、教育委員会が中心となって緊急発掘調査が一月より行なわれてきた。塚原二子塚古墳は、北端部を道路が通過する為に発掘作業が進められ、周囲からは、埴輪や葺石と呼ばれる礫が多数出土している。塚原二子塚古墳の北側に位置する内山塚古墳では、従来直径三十メートル程の古墳と思われていたが、発掘調査により外周部に溝跡が発見され、その中から円筒埴輪が出土した事から、円墳ではなく帆立貝型の古墳である事が判明した。

塚原から駒沢へ降りる東側斜面に広がる集落遺跡であるガンドウ洞遺跡では、北端部分を道路が通過する為に発掘作業が行なわれている。調査実施中の為、最終的な状況はわからないが弥生時代の終り頃から古墳時代中頃までの堅穴住居址が十〜二十軒位あると考えられている。

発掘調査が進む中、三月三日には、市教育委員会と竜丘公民館が主催して、体験学習会と現地見学会が開かれ親子連れなど百人近くが参加した。

体験学習会では「古墳を考える会」のメンバーが中心となり、参加者も発掘を体験し、埴輪の破片を見つけた子供たちも。

「古墳を考える会」では塚原古墳群を、古墳公園として保存していきたいという構想を持っている。太古の遺産である古墳群を後世に伝えていく事は、現代に生きる人として大切ではないか。



あの畑の下がこんなふうだったとは。

が発見され、その中から円筒埴輪が出土した事から、円墳ではなく帆立貝型の古墳である事が判明した。

塚原から駒沢へ降りる東側斜面に広がる集落遺跡であるガンドウ洞遺跡では、北端部分を道路が通過する為に発掘作業が行なわれている。調査実施中の為、最終的な状況はわからないが弥生時代の終り頃から古墳時代中頃までの堅穴住居址が十〜二十軒位あると考えられている。

発掘調査が進む中、三月三日には、市教育委員会と竜丘公民館が主催して、体験学習会と現地見学会が開かれ親子連れなど百人近くが参加した。

体験学習会では「古墳を考える会」のメンバーが中心となり、参加者も発掘を体験し、埴輪の破片を見つけた子供たちも。

「古墳を考える会」では塚原古墳群を、古墳公園として保存していきたいという構想を持っている。太古の遺産である古墳群を後世に伝えていく事は、現代に生きる人として大切ではないか。

グループ紹介

二年程前から、水墨画を書いてみたい、趣味を持って何かやってみたい。といった有志の方々が、桐林公民館・竜丘公民館の協力によって実現し、昨年十月に、「竜丘水墨画教室」という新しいグループが生まれました。

桐林の有志の方々が、先生をお願いし指導を受け、水墨画を書いてみたい、画廊等を回り先生をさがしてみましたが、つて等がなく困り果て、桐林公民館へ相談した所、竜丘公民館の協力を得て、市内在住の下平城子先生(日本墨相画会

から、水墨画を書いてみたい、趣味を持って何かやってみたい。といった有志の方々が、桐林公民館・竜丘公民館の協力によって実現し、昨年十月に、「竜丘水墨画教室」という新しいグループが生まれました。

桐林の有志の方々が、先生をお願いし指導を受け、水墨画を書いてみたい、画廊等を回り先生をさがしてみましたが、つて等がなく困り果て、桐林公民館へ相談した所、竜丘公民館の協力を得て、市内在住の下平城子先生(日本墨相画会

教室は、毎月第二・四水曜日午後七時十五分から九時四十分まで、竜丘公民館の二階の和室で行なわれています。

月二回の教室を心待ちにしている方も多く、あの広い部屋では、多勢の方が

心豊かに…夢実現

竜丘水墨画教室

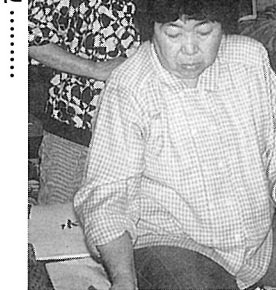
教室は、毎月第二・四水曜日午後七時十五分から九時四十分まで、竜丘公民館の二階の和室で行なわれています。

月二回の教室を心待ちにしている方も多く、あの広い部屋では、多勢の方が

練習し次の教室に色紙に書いて来るこの事です。

初心者の人達が多いので、絵を書く事、技術の上達を目指し、又、親睦を深めて行きたいと、運営委員長の林弘さんは今後の抱負を語っていただきました。

この手の様に……



「暮らしの視点から地域づくりを考える」というタイトルで行なわれました。

私達の暮らしの中にある様々な問題を取り上げ、全国各地のデータを提供し折りませながら、あらゆる角度から地域づくりを考える講演となりました。自然と農業の関わりや、「衣食住」についての感想があがった中で、特に子供の身体と教育問題に関する意見が多く聞かれました。

第三講は、「リゾート開発と環境問題及び地域振興」と題し、第一講と同じく野口先生を講師に行なわれました。

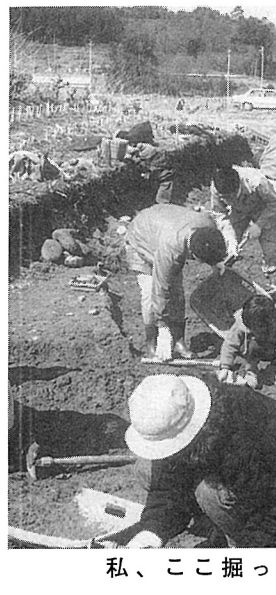
本年度は、若者と婦人の参加者が多いのが特徴的でした。又第四講終了後に、全講座参加した二十名を代表し、元老人会々長の小島若一さん(時又)に修了証が渡されました。

近年、「生涯学習」という言葉を良く耳にします。日頃から、疑問に思う事を自分で学習したり、この様な機会には積極的に参加する習慣を、身に付けたいものです。

去る二月一日より七日まで五日間にわたり、竜丘地区常会対抗綱引き大会の予選大会が、小学校体育館に於いて、開催されました。

当日は、仕事の疲れも忘れ、外の肌寒さとは対照的に、熱気あふれる会場で、熱戦が繰り広げられました。

参加チームは、男女合わせ四十四チーム、五日間で六百人を超える人が集まりました。一チーム八人の五チームごとのリーグ戦により各日の決勝へ進出する代表



私、ここ掘ってみよう

仕事の疲れも忘れ“大ハリキリ”

常会対抗綱引き大会

去る二月一日より七日まで五日間にわたり、竜丘地区常会対抗綱引き大会の予選大会が、小学校体育館に於いて、開催されました。

当日は、仕事の疲れも忘れ、外の肌寒さとは対照的に、熱気あふれる会場で、熱戦が繰り広げられました。

参加チームは、男女合わせ四十四チーム、五日間で六百人を超える人が集まりました。一チーム八人の五チームごとのリーグ戦により各日の決勝へ進出する代表

が決められ、予選を勝ち抜いた五チームにより二月十日、決勝大会が行なわれました。

今回の大会は、昨年までのように各分館予選を行ない代表を決めるのではなく、竜丘全体で予選を行なった為、選手も応援も、一層、力が入った大会になりました。結果は、男子が上川路町並常会、女子は桐林南常会が優勝し、三月三日のCブロック大会に出場しました。